

Rotary International District 2780

GOVERNOR'S MONTHLY LETTER

2014/06/01
Vol. 12



皆さんと一緒に
ロータリーを
実践しましょう

2013~14年度ガバナー
相澤 光春

国際ロータリー第2780地区

ガバナー月信 2013～
2014年度

2014年6月1日 第12号

相澤ガバナーメッセージ

公共イメージと認知度の向上、奉仕の実践

国際ロータリー第2780地区

2013～14年度ガバナー 相澤 光春

ロータリアンの皆様こんにちは。今年度も余す所1ヶ月となりました。今年度は皆様方には何かとご協力賜り、ありがとうございました。心から御礼申し上げます。

今年度は年間を通じて「公共イメージと認知度の向上」とロンド・パートナーRI会長のテーマの中の「奉仕の実践」を掲げ、また各クラブがそれぞれの地域社会においてロータリーが奉仕活動を実践している姿を広く地域の方々に知ってもらうことに焦点を絞り、実践活動を推奨してきました。

奉仕の実践につきましては、2010年からRIの戦略計画の最優先事項であるポリオのない世界の実現、即ちポリオの撲滅END POLIO NOWキャンペーン活動の実践を地域に積極的に推奨し、地域社会への理解を深めるように努めてまいりました。

昨年第6Gで8月3日・4日開催の「あつぎ鮎まつり」のブースを出店し、キャンペーン活動から始まり、本年第2Gの5月17日・18日鎌倉由比ヶ浜でのビーチフェスタ、6月15日小田原城北クラブを中心に第9Gで開催のキャンペーン活動が最終となりました。

ポリオ撲滅キャンペーン活動は、25会場来場者数約123万人、ポリオ撲滅パンフレット1500枚以上配布、募金額210万円となりました。

またジェイコム湘南に16回約45分の間の放映と神奈川県、タウンニュースなど数多く取り上げていただくことが出来ました。各ガバナー補佐の皆様、各会長・幹事の皆様にはご協力を賜り心から感謝を申し上げる次第です。

25回のキャンペーン活動の中で公共イメージ効果測定アンケートを本年4月5日・6日の相模原市民桜まつりと5月17日・18日の鎌倉由比ヶ浜で地区公共イメージ委員会で開催していただきました。

相模原のアンケートでロータリーを知った理由で放送・新聞が17%、この会場で知ったが14%、全体で31%を占め、奉仕の実践活動が大きな成果を上げていることがこのアンケートで確認されました。

国際ロータリー第2780地区では、ポリオ撲滅のために奉仕を実践する行動グループを結成いたしました。名称は第2780地区ポリオ撲滅行動グループと言います。このグループの結成は、ポリオが撲滅されるのを目標に毎年ポリオ撲滅のために実行していく第2780地区の行動グループです。今年度はポリオの発症をゼロになるまでワクチン接種に尽力されたインドに出かけ、その努力の様子を知るため病院・学校・診療所の視察と、自治体が運営しているポリオワクチンなどを接種しているセンターに赴きました。

各施設へはD3010地区のPDGであるRaman Bhatia氏にご案内いただきました。Ramanさんはまず、「Polio Plus Plan活動を始めてから一番最初に寄付を下さったのは日本である。その寄付でベストやジャケットを制作し、だんだんと世界における認知度が上がり、アメリカ・イギリス・ドイツ・香港・台湾などポリオがない国でも意識が高まるようになった」とお話をされていました。



D3010地区PDGのRaman Bhatia氏(中央)とインド・ポリオプラス委員会のマネージャーであるLakesh Gupta氏

インドでは保険自体がなく、毎年1月と2月に全国的にポリオワクチンの接種を行い、デリー地区では加えて毎年3回4月・6月・9月～10月に行っているそうです。

Mother and child welfare Center

ポリオワクチン接種を自治体で運営しているセンターであり、この地域には116個のブースがあり、そのすべてのワクチンがここから配布されていて、毎回ワクチン接種の日は9時～16時まで行っています。

ポリオプログラムの4つの柱

1. Pulse Polio(ワクチン接種) 5歳以下のすべての子供にワクチン接種を行う。インドでは5歳以下の子供だけで1億7500万人いるので大変なことでもある。
2. Routinization(定例化) 世界には6つの予防接種が必要。ポリオもその一つだが、ポリオに関しては産まれてすぐの接種、3ヶ月・6ヶ月など期間が決まっている。
3. Surveillance(監視) 地域ごとにポリオウイルスの発生などを見守るネットワークがある。インドではこの活動がよく出来ていたため撲滅に成功した。
4. Mop up(総仕上げ) 例えば、ある地域でポリオ感染者が見られた場合、その4～5km四方の子供達全員に経口ワクチンを接種する。

以上の柱でインドはポリオの撲滅に成功した。特に免疫を作るためには2のRoutinizationが大事。インドでは経口ワクチンで接種を行う。インドではポリオの撲滅に成功したが、まだネパール・パキスタン・バングラデシュの国境からインドにポリオが入ってくる可能性があることが懸念である、と話されました。

病院のドクターは「Ramanさんはポリオ撲滅に対するバイオニアであり、一番注目すべきことは、デリーから出発する電車、バス、車に乗るすべての5歳以下の児童にワクチンをその場で与えられた人だということです」と話していました。

ロータリアンの熱意と諦めず目標に向かって持続し続けておられる事に心を打たれました。私は、彼の中に「親友の心」を感じる事が出来ました。

第 2780 地区ポリオ撲滅行動グループ 活動報告

ポリオ撲滅の夢がインドで現実に

地区幹事

田島 透 (ふじさわ湘南 RC)



第 2780 地区ポリオ撲滅行動グループ

今年度、第 2780 地区では、公共イメージ委員会とポリオプラス委員会の協力の下、地区内 25 か所でポリオ撲滅キャンペーンを展開し、世界のポリオの現状を知ってもらい、撲滅に「あと少し」を訴え、地域への広報と募金活動を実践してきました。ポリオ撲滅を訴えながら、この運動を今後も続けるためにも、「第 2780 地区ポリオ撲滅行動グループ」を結成し、3年間にポリオの発症をゼロになるまで尽力されてきたインドに赴き、どのようにして活動されてきたかを視察させてもらうことにいたしました。

今回の行動グループはガバナー、ガバナーエレクト、地区幹事、ガバナー補佐、地区公共イメージ委員の計 6 名と通訳の大槻さんと結成されています。通訳としてお願いした大槻祐子さんは当地区の ROTEX のメンバーであり、インド在勤 3 年で通訳だけでなく、インド通を生かして、現地関係者との対談で多大なる役割を果たしてくれました。ロータリーの家族の絆の有難さを実感した次第です。

又、現地との連絡は小沢トラスティーよりご紹介をいただき、インド・ポリオプラス委員会のマネージャーである Lakesh Gupta 氏が私たちの今回の視察のプランに多大な協力をいただきました。現地を訪れ、ポリオのすべてを見て知ってもらうこと、その積み重ねが世界にポリオの現状を知ってもらうことにつながりますから、とおっしゃったその精神に感動をいたしました。

現地ではインド・ポリオプラス委員会の Mr. Raman Bhatia (Past District Governor/ DELI Midtown Rotary Club) が病院、学校、診療所へ私たちを案内してくださいました。



ミッドタウンロータリー診療所にて



病院にて

Akshay Pratishthan School Of Polio



学校への寄付



検査の様子



授業の様子

【Akshay Pratishthan School Of Polio】

最初に訪れたのは、チャリティーからなる私立の学校で、ポリオが原因で麻痺になった子供たちが中心に、4歳から14歳の子が通っています。その学校を卒業後、さらに進学することができ、健常者と同じ学校に通う機会も多くあるそうです。また勉強の他にも手芸、パソコン、焼き菓子、機械などの職業訓練も行っていて、Rotaryはその学校をサポートするだけでなく進学する学生に対してロータリー奨学金を出したり、障害者学生用にカスタマイズしたスクーターやパソコンの支給をしたりしているそうです。麻痺の手術後のリハビリは病院だけでなく、この学校でも行われています。

【St. Stephan Hospital】

次に訪れたのは St. Stephan Hospital です。この病院は129年の歴史がありデリーで最も古い病院です。595の病床があり、ポリオ患者には9病床が当てられていて、ロータリーが支援を始めたのは2001年からで、過去、日本政府も病院の施設に関して援助をしてくれています。インドでは、麻痺の手術後のリハビリについても力を注いでいます。1994年から活動を始め、20年経った今もWHOによるとインドには10,000人のポリオウィルス感染者がいるとのこと。ポリオが原因で小児麻痺にかかってしまった子が普通の生活が出来るようになるまで、まず、手足、脊髄の手術を行い、リハビリを行ったうえで、学校に通い、仕事に就けるようにするという一連のサポートをロータリーが行っているそうです。



院内で説明を受ける D2780 地区行動グループ



デリー・ミッドタウンRCと和ロータリー財団の寄付による「ポリオ矯正手術及びリハビリテーションプロジェクト」のプレート



「病棟にて」
【麻痺の治療プロセスの説明】

ポリオ患者は下半身麻痺が多く、歩くことが出来ないために常に座った状態で暮らさなければなりません。下半身の筋肉が衰え、ひざが曲がり立つことさえも出来なくなり、手術では膝をまっすぐにして、縮まった筋肉を伸ばすことから始められるそうです。術後4～6週間で足を伸ばしてから Gate Training と呼ばれる歩く練習をしますが、ロータリーがリハビリも無料でサポートしています。リハビリ終了後に仕事の紹介などもされているそうです。リハビリをすると失った筋肉の60～70%は戻ってきて、家では道で生活していたような子供達が歩けるようになって、人生を楽しめるようになります。この病院ではインド人の一般家庭で食べるような食事、ケア、愛情を受けられるので、ロータリーはこの病院を選択し、支援を続けています。ポリオに感染する子供たちの99.9%は貧乏で衛生環境が悪いところに居住しており、罹患しやすく、ロータリーのサポートが重要な役割を果たしていました。病院の先生やスタッフも奉仕の心にあふれ、素晴らしい人たちにお会いすることができました。



病棟にて



重症だった女性と面会して

特に女性はポリオが完治しないと結婚がとても難しいので、一度の手術に大体40～50万インドルピー（\$6500～8500）がかかりますが、その費用は半分ロータリーが、もう半分は病院で寄付して助けています。



【ワクチン接種】 接種部屋にて

まずは生まれたばかりの子供に与える 0 doze が大切。毎週 2 回病院やデリー市内で出産した子供には出生後すぐに接種できますが、都市から離れた実家で出産した場合にはその接種が出来ないため、自分から来てもらう必要があります。接種活動は毎週火曜、金曜で各ブースで行っているそうです。ワクチンのステータスはカードで管理しており、時々そのカードを無くし、ワクチンのステータスが分からなくなってしまう場合もあるそうですが、デリー地区ではコンピュータでの管理を行い、そのようなことがないように努めているそうです。現在は経口ワクチンのみで、出来るだけ早く注射形式にしたいそうです。その理由は、生ワクチンはウイルスなので、それが原因でポリオに感染してしまうこともあるそうですので、WHO としても注射を推奨しているのだそうです。



ワクチン接種を管理するカード



接種の様子



接種に努む様子



接種を終えて

このポリオプラスの活動は、ある日、第 2830 地区の開場バスターガバナーとそのほか 4 名の外国人で小さな村でポリオに感染した子供を見てから、今私たちが食事をしてお話をしているような席で、ワクチン接種の活動を始めよう、と活動を始められたそうです。

私たちのこの初めての視察旅行もここから何か生まれ、地区の皆さんから、次への活動のきっかけになったりするかもしれません。明日への活動の大きな力につなげたいと、行動グループのメンバーは強く思いながら帰国しました。

END POLIO NOW キャンペーン



鎌倉ビーチフェスタで 1500人近くが「もうちょっと」ポーズ!

地区公共イメージ委員会
副委員長 新井 今日子 (鎌倉RC)



「2013-2014年度 End Polio Now」最後を締めくくる第25回目キャンペーンが、5月17日(土)18日(日)の2日間に渡り、鎌倉由比ヶ浜で繰り広げられました。

鎌倉商工会議所主催の「鎌倉ビーチフェスタ2014」は、長く地元で愛されている初夏のイベントの一つ、毎年40,000人以上の地域の人々且つ市外県外の人々で賑わうお祭りです。そこで第2グループ5クラブの力が集結し、今年度のトリを飾るに相応しい新しい形の「End Polio Now」が実施されました。

End Polio Nowと大きく貼り出されたスクリーンの前で、一般来場者に有名な「もうちょっと」ポーズをとって頂き写真撮影をし全ての写真を今回のために立ち上げた独自公開ホームページ(www.endpolio.jp)に掲載し、誰でも閲覧且つダウンロードできるようにしました。鎌倉市長はじめ408カット1500人近くの方々が、笑顔で撮影に応じてくださいました。ホームページのアクセス数も毎日更新され、キャンペーンの効果が大いことを表すリアルタイムな測定記録となりました。

また、日中暑くなる砂浜で熱中症対策としての清涼飲料水も配布し、ペットボトルのレーベルには、「End Polio Now」とURLを印刷し、キャンペーンの内容だけでなくその地域に根差すロータリーの地道な社会奉仕活動の歴史を、当日だけでなく長い期間、広く一般に見て頂く工夫をしました。800本のペットボトルとRIのポリオ撲滅のチラシ250部は、即座に配布終了し、ホームページ共々、一般の方々の記憶に残り、次年度キャンペーンに向けて、確かな事例となりました。

今年度のキャンペーンの締めくくり、1年間の各グループ、皆々様の様々なご尽力が、集結傑出した2日間でした。深く感銘感謝申し上げます。



インドで ポリオ根絶を願う

相模原市 中村 辰雄

紀元前2000年前後に栄えたインダス文明から4000年以上の歴史を営んできた悠久の大地には、幾度も政変や宗教紛争を繰り返しながらも、現在も変わらぬ祈りの姿が見られます。13億数千万人のインドの人々は、たとえ住まいがなくとも、飢えが生じても、祈りを怠ることはないといいます。今回、私が訪れたデリーも、早晩、祈りの声明が夜陰残る街に響き、一日が始まります。

インド N I D s (National Immunization Days 全国予防接種日)は、「Keep India Polio Free (ポリオフリーのインドを維持しよう)」のスローガンの下、毎年1月中旬、世界中のロータリアンやローテックス(元青少年交換学生)が参加しています。第2780地区も7年前から参加しており、今回もロータリアン7人(相澤光春バスターガバナーは7年連続です)、ローテックス1人、大学生各1人が参加。オールドデリーの2カ所のスラム街で、19日の初日は保健所内ブースで、翌20日には3棟に分かれ、スラム街を戸別訪問しながら、乳幼児から5歳までの子どもたちにワクチン投与を行いました。

インドは2011年1月13日に西ベンガル州で最後の野生株ポリオウイルス感染が報告されて以来、ポリオ感染の報告はなく、14年にポリオフリーの認定を受けておりますが、世界中からポリオ根絶が達成されない限り、予断を許



子どもにワクチンを投与する田島透ガバナーエレクト

さない状況にあります。無邪気で明るい子どもたちの中には、いまだ裸足で生活する子もおり、まさに危うい環境にあることを実感しました。

現在、ポリオ常在国はパキスタン、アフガニスタン、ナイジェリアの3カ国。まだまだ多くの子どもたちがポリオワクチンを受けなければならぬ現状を思いながら、投与を行いました。

終わってから持参した小さなお土産をわたすと、屈託のない笑顔で浮かべ、恥ずかしそうにお母さんの胸に顔をうずめる姿、ポリオから解放された瞬間の笑顔。一生忘れることのできない、貴重な体験をさせていただいたことに感謝しながら、R1の宿願である「END POLIO NOW」が、一日も早く達成されることを心より願い、帰国の途に就きました。

(第2780地区 神奈川県 相模原市)